

1 学校教育目標

○考える子 ○がんばる子 ○助け合う子 ○元気な子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○児童・保護者・地域から信頼される学校 ○子供一人一人を大切にし、子供たちが「明るく生き生きと活力のあふれる」学校 ○子供・教職員ともに良さや可能性を十分発揮し、ともに成長する学校
○児童・生徒像	○子供たちがめざして欲しい「扇っ子」の姿を全校児童に ・「おもいやり」の心を大切にする児童、「うんどう」して体を鍛える児童、「ぎもん」を大切にし、自ら学ぶ児童
○教師像	○自らの向上を図ることができる教師 ○学校運営に貢献し、主体的な提案ができる教師 ○学校、児童、地域に誇りをもてる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

[令和2年度の現状]

- 児童 ・基礎学力定着のための全校的な取組を継続する必要がある。また、特別支援教室での指導が必要な児童が1割程度いる。
- 教職員 ・教職員3名転入。若手が多いため、学習指導・校務分掌等の各組織が機能するように、必要に応じて組織改編を行う。
- 保護者 ・学校の教育活動に対して協力的な保護者が多いが、基本的な生活習慣の確立や家庭学習の習慣化等において学校の関与が必要な家庭がある。

[前年度の成果と課題]

- 児童 ・言葉の力が身に付いてきた。分かる授業の実施と補充学習や家庭学習の充実により、基礎学力の定着を図ることが課題である。
・大勢の前で堂々と発言できる自信や自己表現力を育てることが課題である。
- 教職員 ・ICT機器を活用した授業改善が行われている。若手が多く、一層の指導力向上が課題である。
- 保護者 ・保護者や地域の方は、挨拶運動・地域行事に協力的であり、地域ぐるみで子供を育てようとしている。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	自己肯定感の醸成	○	○	○	○	○
3	教員の授業力向上	○	○	○	○	○
4	小中連携	○	○	○	○	○

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
児童の基礎的学力の定着		・R2 区調査通過率 75%以上 ・2月1 学年上問題 80%以上		・R2 区学力調査通過率 72.2% ・2月1 学年上問題 90%		補習の成果が出てきている。自力で学習に取り組む力の育成を完全なる定着にはまだ課題が残る。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	家庭学習の手引き発行	全学年 全員	年1回 (4月)	【ねらい】 ・家庭学習の習慣化・協力 ・宿題の提出率を担当が確認	宿題提出状況 調査	・宿題提出率 90%	宿題提出率は全学級 85%以上 未提出は固定化。	自力で家庭学習をできる力を身に付けさせたい。	△
2 継続	朝学習 パワーアップ タイム	全児童 国語 算数 読書	火:国語 水:読書 金:算数 始業前	【指導者】担任 【ねらい】復習・確認 【使用教材】計算プリント等	単元テスト ・全校共通ソフト に入し毎月確認	・単元テストで 正答率 80% 以上	国語 3年以外 80% 達成 算数 1,3年生のみ 80%以上達成	達成していない学年も 78%~79%であるが特に 算数については改善が必要。	△
3 継続	補習教室 (A補習) (C補習)	全学年・ 各教科	休み時 間や放 課後等	【指導者】各担任・専科 【ねらい】指導中内容の定着 【使用教材】プリント等	定着度 確認テスト 12・2月実施	2月テストで目標値を 通過する対象児童 80%	学校全体 通過率 国語 80.0% 算数 86.4%	通過率はほぼ達成でき 補習の成果は出ていると 考えられる。	○
4 継続	放課後補習 教室 (B補習) (C補習)	全学年 国語、 算数	放課後	【指導者】各学年担当者 (担任・専科・管理職等) 【ねらい】つまづき解消 【使用教材】 ・定着度テスト対応問題 等	定着度 確認テスト 9月に実施	2月までに実施する 定着度確認テストで目標 値を通過する対象児童 80%	学校全体通過率 国語 83.5% 算数 79.5%	11月実施のちょう さでは、国語は目標 値を達成できたが、 算数に課題があった ため、その後の補習 を継続し2月の結果 で目標を達成した。	△

5 継続	サマー ウィンター スプリング スクール	全学年 算数 国語 各学年 10 名程度 正答率 70%以下	夏休み 10日 冬休み 1日 春休み 1日	【指導者】担・専・管 【ねらい】 担任による少人数指導。つま ずきの解消。解けなかった問 題の解き直し等。 【使用教材】 ・プリント教材 ・次へのステップ等	校内学力テス ト	次回の校内学力 テストで正答率 アップ	新型コロナウイルス 感染拡大により実施 せず。	実施できなかったた 評価せず	
6 継続	かけ算九九 検定	2年生～	2年かけ 算学習開 始～ 3年～ 通年	【指導者】担・専・支援員 【ねらい】 かけ算の完全習得(暗唱) 【使用教材】 かけ算九九チェックリスト	定着度確認テ スト (対象児童)	2年生 2月末90%習得 3年生以上 7月末習得	2年生 2月末95%習得 3年生以上 100%習得	取組中はほとんどの 児童が確認テストで 満点を取ることがで きたが、継続した指 導は今後も必要。	○
7 継続	漢字 マスター	全学年	通年	【指導者】担・専・支援員 【ねらい】配当漢字完全習得 【使用教材】 漢字マスタープリント	漢字マスター プリント	・90%以上習 得8割以上	90%以上習得児童8 割以上	今後も継続して指導 すると共に、日頃の 生活の中で漢字を意 識して使えるように する。	○
8 継続	読書・読み 聞かせ活動	全学年	年間	【指導者】担・ボランティア等 【ねらい】 読書習慣の定着・語彙の獲 得・知的好奇心の涵養 【使用教材】記録用カード	記録用カード 題名とペー ジ 数を記録	・1～3年 80冊/年 ・4～6年 6000頁/年 50%以上が達成	全校で53%の児童が 達成。	高学年になるほど達 成率が下がる傾向に ある。読書の習慣を 身に付けさせたい。	△
9 継続	MIMによ る指導の充 実	1年 そだち指 導	年間 国語・ そだち 補充	【指導者】1年担任、 そだち指導員 【ねらい】MIMの確実な定着 【使用教材】プリント教材	MIM 実施状況 を毎月確認	1月に1stステ ージを85%	1月に1stステージ を95%達成	学級で継続的に支援 の必要な児童に個別 指導をした結果90% を超える児童が1st ステージを達成する ことができた。	◎

重点的な取組事項－2		児童の自己肯定感の醸成			
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度

児童の自尊感情を高め、母校愛や郷土愛を育む。	児童による「生活がんばりカード」や、ふれあい月間調査で良い項目を70%以上にする。	概ね70%を超える項目が多かった。	家庭学習の時間とあいさつについては課題が多く改善が必要。	△	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
全校朝会・学校便り等の場での児童、教職員、保護者の活躍を賞揚	機会があるごとに全校朝会・学校便り等で表彰、賞賛、善行紹介を行う。	児童のよさを具体的に認めて学校全体に広がるようにする。また、他の人のために努力している児童を積極的に紹介する。	児童の活躍を学校便り等で紹介したり、学校ブログで伝えたりすることができた。また、校長講話の中で、あいさつの頑張りなどを伝えることができた。	児童の日々の頑張りを取り上げることで自信をもたせることができた。	○
自己実現・発表の場を設ける。	学級・学年を単位として、全校児童の前で堂々と表現できる。	今年度はタブレットなどを活用し、発表の方法を工夫する。また、お互い感想などを交換することにより、児童が自信をもって表現できるようにする。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため全校の前で直接発表することはできなかったが、タブレットを活用し、全校に発信する取り組みを行うことができた。	タブレットやZOOMなどICT機器の活用を通して活動や発表の場を広げることができた。	△
外部講師による体験活動を実施。	全学年で1回以上の体験活動を行う。オリンピック・パラリンピック教育としても外部講師を招聘した体験活動を計画的に実施し、充実させる。	外部専門家講師による授業を継続。(落語・手話・点字・スポーツ選手等)東京都や地域の諸団体の出前授業に応募して講師を確保する。地域の優れた人材を見つけ、体験活動を指導してもらう。	新型コロナウイルスの感染拡大のため、例年実施している体験はできなかったが、音楽鑑賞や新聞社による出前授業など実施できるものを工夫して行った。	活動が限られた中でもできることを工夫することで、新たな体験活動を実施することができた。	△

重点的な取組事項－3		教員の授業力向上			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
課題解決型指導方法の確立 (国語・算数を中心に)	各教科について、「足立スタンダード」またはそれに準ずる課題解決型指導方法を全教員が共通実践する。板書や児童のノート指導等の全校統一を徹底する。	問題解決型指導については共通実践をすることができた。板書やノート指導に関しては全校統一での徹底はできなかった。	児童の学力定着のために板書計画やノート指導の徹底が重要課題である。	△	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

課題解決型の授業を行う。また、授業公開と授業参観により自らの指導法改善・工夫に取り組む。	授業公開・参観をそれぞれ、年間3回以上行う。達成状況の判断は管理職が行う。	年間3回以上の授業観察を基に管理職と教科指導専門員・他の教員が授業観察を行い、「授業チェックリスト」「若手教員育成シート」に基づいて改善させる。	年間3回の以上の授業観察を行い教科指導専門員と連携しながら授業改善への支援をした。教員相互の授業参観は密を防ぐため難しさもあったが、学年間での授業参観・学年主任による指導を行った。	全教員が問題解決型の授業を実践しているが、学力定着のためにさらなる改善が必要である。	△
校内研究会・研修会の実施 (ICT活用研修を含む)	小中連携授業研究とは別に授業研究会・指導法の研修会を行う。	・タブレットPC活用研修 ・全教員による協議会を行う授業研究会の実施。 ・プログラミング教育年間指導計画の作成。	タブレット及びICTの研修会は年間3回実施した。プログラミングについては、高学年の授業で実施した。その他、特別支援教育についての研修会を1回実施した。	ICTの活用については各教員の意識が高まり工夫が広がっている。	○
教育研究会への参加	区小研への参加80%、各年次研への参加100%、区内外の教育研究会等へ2回以上参加。	区小研、各年次研参加は原則悉皆。区内外の研究会等への参加を奨励し、教科主任には指導教諭公開授業に参加させる。研修後は校内に伝達講習をさせる。	新型コロナウイルス感染拡大によりほとんどの研修会が実施されなかった。年次研への参加は100%。指導教諭公開授業へ参加・伝達研修を行った。	新型コロナウイルス拡大のため研修への参加がほとんどできず充実できなかった。	●

重点的な取組事項－4		小中連携（扇小-江北桜中、高野小、江北小）			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
9年間の指導の連続性・系統性を生かして基礎学力の定着と授業力向上。	種々の交流の機会を作り、年間20回以上を目標とする。	新型コロナウイルス感染拡大によりほとんど実施できなかった。	実施できなかったため評価できず		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中教員相互の連携	授業力向上のための研修会・授業研究・及び共通課題の解決に向けた研修を年7回以上行う。また、保健・生活指導・特別支援に関する情報交換を密にする。	○合同研修会を行う。 ・児童生徒理解 ・教科の系統性・連続性確認 ・足立スタンダード型授業 ○小中4校1回ずつ研究授業 ・6分科会ごとに実施・協議 ○特別支援・保健の情報交換	新型コロナウイルス感染拡大により中止	実施できなかったため評価できず	

児童・生徒の連携	児童生徒の交流を年3回以上行う。	○小学生が中学校運動会参観 ○小学生が中学校の文化的行事に参観・参加 ○部活動体験会に6年生が参加し体験	6年児童が中学校へ行き施設見学および中学校生活についてガイダンスを受け交流した。	1回だけでも交流を実施できたことで6年生にとって中学生活への意欲へとつながった。	○
生活指導の連携	○交通安全・生活安全について小中で共通した指導を行う。 ○課題のある児童生徒の共通理解。	○生活指導部を中心に、発達段階に応じた内容・方法で、統一した指導を行う。 ○定期的に生活指導上の情報交換・合同研修会を行う。	6年担任と中学校教員と進学に向けて情報交換を行った。	情報を共有することで中学校へのスムーズな進学を目指していく。	○
地域やPTAの連携への協力	小中学校PTA主催行事、地域行事に教員、児童を計画的・積極的に参加させる。	○地域行事、PTA主催行事に児童延べ100人派遣する。また、小中連携講演会等に延べ10人以上の教員を参加させる。	新型コロナウイルス感染拡大により中止	実施できなかったため評価できず	

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア学力向上アクションプランについて

【課題】・補習の効果は見られたが、繰り返し指導を繰り返さないと定着しない児童が20%いる。

- ・宿題の提出率が100%に届かなかった。自力で学習できる力は身に付いていない児童が多く、家庭学習の習慣を身に付けさせたい。

【対策】・次年度は補習の内容を充実させ、継続的・計画的に補習を行っていく。

- ・学習の定着を図るためには家庭学習の習慣化は必要と考える。次年度は、管理職による宿題に特化した補習を行うなどして自力で学習できる力を身に付けさせていく。

イ自己肯定感の醸成

- ・コロナ禍ではあったが、児童を認める場や体験学習を工夫し、児童が自信をもつことができるようにした。しかし、自己肯定感を高めるには十分ではなかった。次年度に向けて、活動の場を工夫し、児童が自分を大切にすると同時に自信をもって活動できるようにしたい。

ウ教員の授業力向上

- ・課題解決型指導に関しては、全教員が意識して取り組むことができた。次年度は児童の学力向上に結びつくように校内研究や研修を充実させていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

- ・新型コロナウイルス感染拡大のため、様々な行事が縮小され保護者の参観も制限せざるを得なかったが、ご理解いただき大変ありがたかったです。また、子供たちの毎日の健康観察にご協力いただき本当に感謝しております。次年度も学力定着のための取り組みを充実させていきます。ご協力をよろしくお願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、学校での感染防止に努めてきた。授業の中でも密にならないよう配慮した活動を工夫し、その中でICTの活用は大変有効であった。来年度は、さらにICTの活用やプログラミング教育を充実させるため、教職員の研修を行い活用の幅を広げていく。

